

手をたずさえて

“富中PRIDE”～自信と誇り～

- 自ら学ぶ生徒
- 正しく行動する生徒
- 健康でたくましい生徒



平成30年8月28日(火)発行
【発行責任者】郡山市立富田中学校長 熊坂 洋

『一念岩をも通す』

～スーパーボランティア 尾島春夫さん～

この夏休みを、みんなはどう振り返りますか？
「〇〇がわかった」「〇〇ができるようになった」など、自分なりに夏休みの努力の成果を具体的にあげることができますか？

まずは、元気な姿で再会できたことを嬉しく思います。

男子バスケットボール部、男子ソフトテニス部、女子剣道部等の中体連県大会での熱き戦い、強いチームワークと粘り強さで戦い抜き東北大会出場を決めた女子卓球部、東北チャンピオンに輝いた特設水泳部須賀君、五十嵐君、山本君、野矢君、そして最上位大会の全国大会への出場を果たした特設水泳部、陸上部橋本さん。さらには、全国第2位というとても素晴らしい成績を残した野矢君。そして、猛暑の中での各部活動の練習や活動や各種大会・コンクール、英語弁論の練習、新たな一歩を踏み出した合唱部。3年生は三者相談や体験入学、2年生は職場体験学習など、生徒のみんながそれぞれの立場で、それぞれの目標の向かって一生懸命活動してくれた夏休みでした。

さて、「一念岩をも通す」という言葉があります。

「強い信念をもって物事に当たれば、どんな事でも成し遂げることができる。」という意味です。
この「一念岩をも通す」という言葉がぴったりあてはまる出来事がありました。

山口県周防(すおう)大島町で行方不明になった藤本理稀(よしき)ちゃんを発見した、搜索ボランティアの尾島(おはた)春夫さん。その発言や生き方に日本中が感動したという、あの出来事です。

ボランティア歴30年の尾島さんは、東日本大震災の被災地で「思い出探し隊」の隊長を務め、熊本大地震などでも活動した、『スーパーボランティア』。山口に行く前も、6月には大阪北部地震、7月には西日本豪雨で被害を受けた広島県呉市で活動していました。そして、今もまた広島でボランティア活動を続けています。ボランティアの世界では、「師匠」とも呼ばれています。

その尾島さんが称賛される理由は、知恵を活かして、搜索開始からわずか20分で理稀ちゃんを探し当てたことだけではないと思います。理稀ちゃんの祖父からの「お風呂に入って行って」という申し出を断り、「ボランティアだから何も受け取らない」と話す姿がテレビに映し出され、その信念を貫く姿に称賛の声が相次ぎました。尾島さんに対するマスコミの取材も過熱気味だという思いはありますが、その姿には心が洗われました。



「ボランティアに必要なことは」という問いに対し、尾島さんはこう答えています。

「お金の援助、物資の援助、両方できないから何もできないというのは違う。それなら『心』を送ってあげてほしい。」

「賭けた情けは水に流せ、受けた恩は石に刻め」【刻石流水】

この「刻石流水(こくせきりゅうすい)」という言葉は、「受けた恩義はどんな小さくても心の石に刻み、施したことは水に流す」ことを指します。人から受けた恩は、その人に返すのみならず、より多くの人に施すこと。そして自分が施したことは、その瞬間に忘れることでもある。

まさにボランティアの精神を体現している言葉です。

理稀ちゃんの発見は、その経験はもちろんのこと、多くのひとに恩返しをしたいという運命を自ら背負って生きてきた男が持ちえた幸運だったのかもしれない。

そして、尾島さんの姿には、「強い信念をもって物事に当たれば、どんな事でも成し遂げることができる」、つまり「一念岩をも通す」という言葉がオーバーラップします。

この夏休み中、間にまみれた不正や不審死、事件や事故と、気が滅入るようなニュースばかりでしたが、3日間耐え抜いた理稀ちゃんの生命力、尾畠さんの「一念岩をも通す」行動力、そしてこの2人の奇跡的な出逢い…。

『人間は、やっぱりすごい!』という思いを強く感じることができました。

2学期のスタートです。我々も尾畠さんと同じ人間です。

「一念岩をも通す」という思いを持ち続けながら、1年生は中学生らしさを本物にすること、2年生は学校の要としての働きを果たすこと、3年生は進路実現に向けた準備体制をより強いものにしていくこと、それぞれが「成長する学期」となるよう、努力してほしいと思います。

～ 第2学期始業式 校長式辞 ～

充実した2学期にするために… 学年代表らしい立派な発表でした!

始業式では、各学年の代表生徒が「2学期の抱負」を発表しました。1年の堀越 楓さんは、学習や部活動、榎祭等への4つの取組について具体的な目標を発表しました。そして、それらの基盤には正しい判断と正しい行動が大切であると述べました。原稿を見ずに堂々と発表することができました。2年の齋藤 蒼君は、夏休みにおける学習と部活動の両立の苦労や2学期は様々な面で2年生が主体となって学校を盛り上げていくこと、夏休みの職場体験学習により自分の将来へのヒントを得たことなどの発表がありました。3年の三次 凧冴君は、夏休み中の学習や生活が今までとは大きく変化し充実したこと、2学期は進路目標の達成のために、ひとつひとつの授業に手を抜かずに取り組みむことなど、ノー原稿で発表しました。3名の発表は、いずれも「さすが!学年代表」と言えるすばらしいものでした。3名の生徒の思いが他の生徒達にも共有化され、各学級、各学年、各部活動等の様々な集団が成長し続けていくことを大いに期待したいと思います。



1年：堀越 楓さん



2年：齋藤 蒼君



3年：三次 凧冴君

こんな“善行”がありました!

野球部5名の見事なファインプレー

富田地区在住のある方から27日に学校に電話が入りました。

8月25日(土)の午後、部活動帰りの野球部の5名の生徒達が日吉神社付近で迷子になっていた5歳の男の子を助けました。野球部の5名とは、2年の尾辻 晴君、竹内悠斗君、1年の高橋直生君、木村亮介君、雨宮幹太君です。

家に帰る途中の5名は、トラックが向かってくる道路に飛び出そうとした男の子を止め、家まで送ろうとしましたが、男の子は家が分からなかったそうです。疲れたと言った男の子を尾辻君が抱っこし、5名で機転をきかせ富田交番にとどけたそうです。その男の子は障がいをもっており、すでに交番には迷子になったとの届け出がされていたそうです。無事男の子は保護され家に送りどけられました。その男の子のお母さんが学校に電話をくださり、さらには野球部の生徒達への感謝の意を伝えるため、わざわざ来校されました。命を落とす危険性もあったとのことで、甚く感謝されていました。

野球部5名の見事なファインプレーにより、5歳の子の大切な命が救われました。始業式の式辞で話した内容とも重なり、2学期早々から本当にすばらしい本校生徒の心ある行為を知ることができました。そんな生徒達を誇りに思います。

5名の野球部の生徒達 “いい顔” してます!

